

## 長野・屋代遺跡群（北陸新幹線関係）



（長野）

○<sup>2</sup>mの調査が行なわれた。

（財）長野県埋蔵文化財センター「北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報 告書三 更埴条里遺跡・屋代遺跡群」（一九九八年）（水沢教子）

- 1 所在地 長野県更埴市屋代
- 2 調査期間 一九九四年度調査 一九九四年（平6）四月～一月
- 3 発掘機関 （財）長野県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 澤谷昌英・寺内貴美子・鳥羽英継・百瀬長秀ほか
- 5 遺跡の種類 集落跡・水田跡・畠跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代後期、古墳時代中～後期、古代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

屋代遺跡群は、長野盆地南端部更埴市屋代から雨宮地籍にかけて

の千曲川右岸の自然堤防上に広がる遺跡の総称である。

今回紹介する北陸新幹線関係の調査区は、「屋代木簡」

（本誌第一八号）が出土し

た高速道路地点の西側約八八〇mに位置し、一九九三年度から三ヵ年で八二九

特に四つの検出面が重層する北側の調査区（六・七区）では、古墳時代後～末期の竪穴住居一七軒・掘立柱建物一棟、八～九世紀の竪穴住居五七軒・掘立柱建物五棟、水田・畠などが検出された。木簡はこのうち六区から出土した。

出土した木簡は一点で、第四検出面で検出された掘形径二・七m深さ二・五mの井戸（SE六〇〇二）に残存していた、七点の木枠材のうちの一点に転用されていた。この井戸は七世紀後半～九世紀半ばの切り、平安時代の水田に覆われており、七世紀後半～九世紀半ばの時間幅の中とらえられる。この他六区では、墨書き器四七点が集中出土しており、特に「夫」字のものが一八点に上り、注目される。

### 8 木簡の釈文・内容



539×54×2 011

木簡裏面は剥ぎ取り無調整。表面は井戸枠に転用されていたためか、風化によって調整法は不明である。文字は左側に寄つて六文字確認できる。樹種はサワラである。

### 9 関係文献